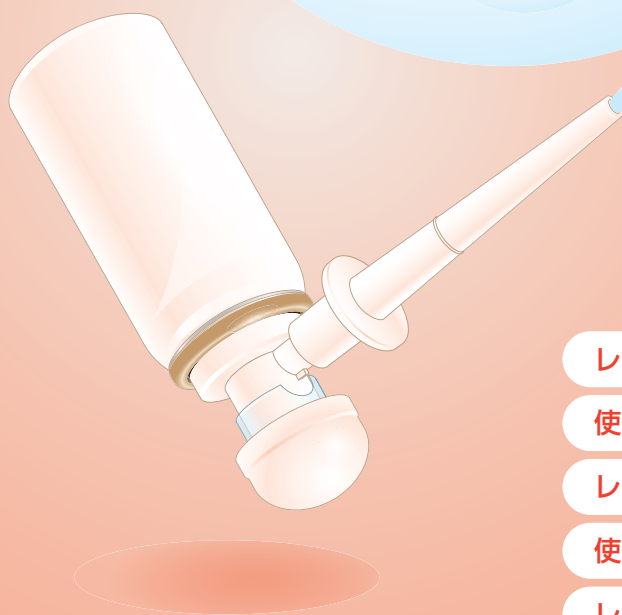


レクタブル[®] 2mg

注腸フォーム14回
を使用される
患者さんへ



レクタブル[®]とは？

2

使用の準備

4

レクタブル[®]の使用法

6

使用終了後

8

レクタブル[®]の副作用

10

チェックリスト ～特に気をつけてほしいこと～

11

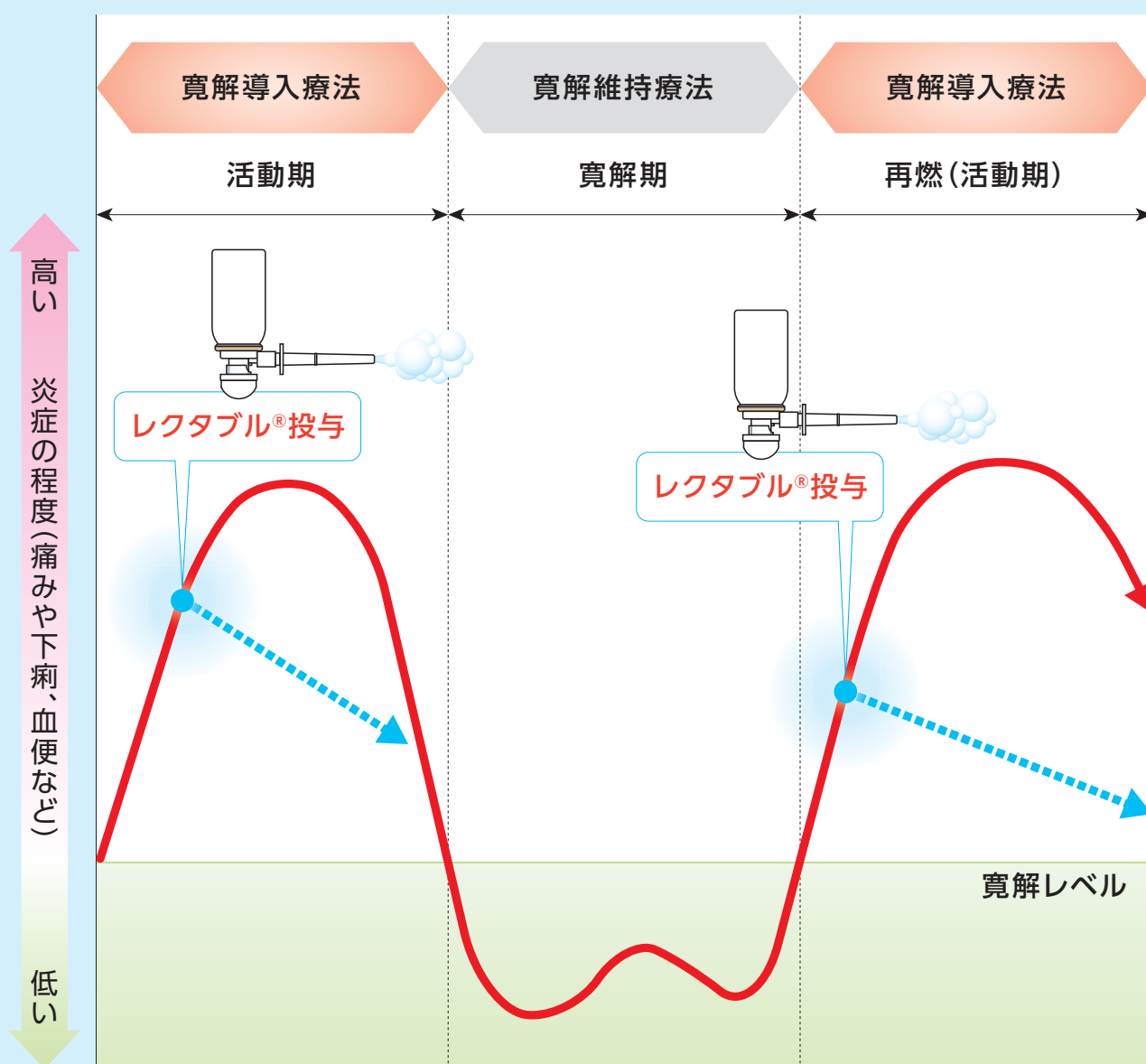
● レクタブル®とは？

● レクタブル®は、「活動期」に使用するお薬

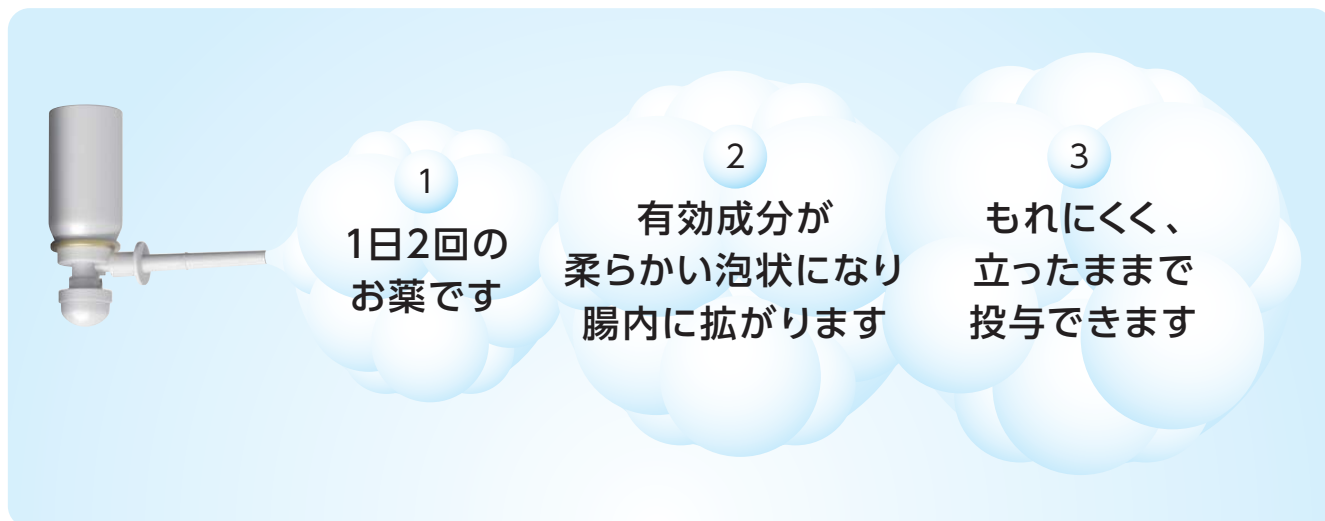
潰瘍性大腸炎は多くの場合、炎症による症状がある「活動期」と、治療により症状が治まった「寛解期」を繰り返します。活動期には適切な治療によってできるだけ早期に寛解を目指し、できるだけ長く寛解を維持することが大切です。

レクタブル®は活動期に使用するお薬で、荒れた粘膜を治療し、痛みや下痢、血便などの症状を改善します。

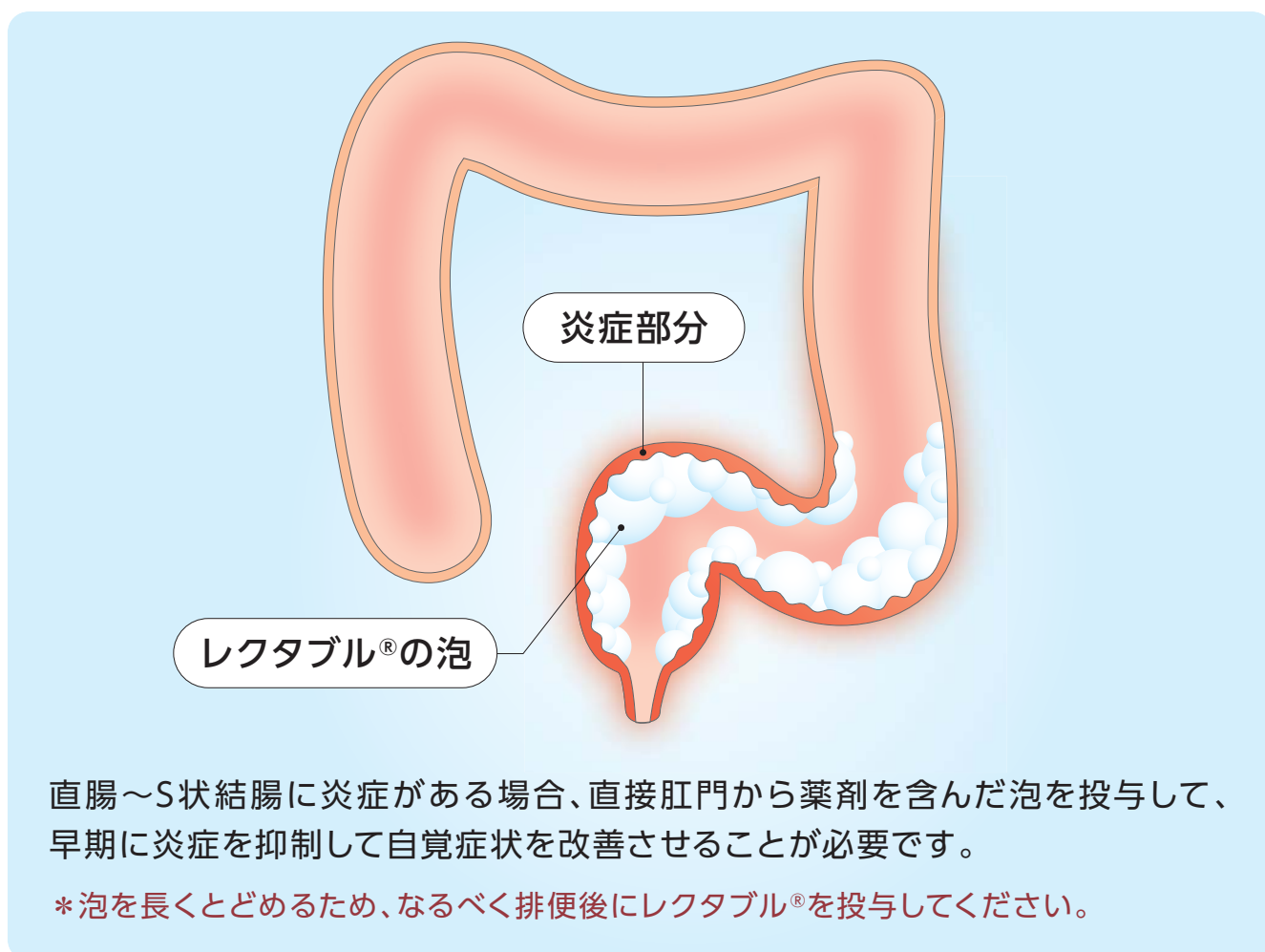
病気の活動期の治療の流れ



● レクタブル®は、フォーム剤という泡状のお薬

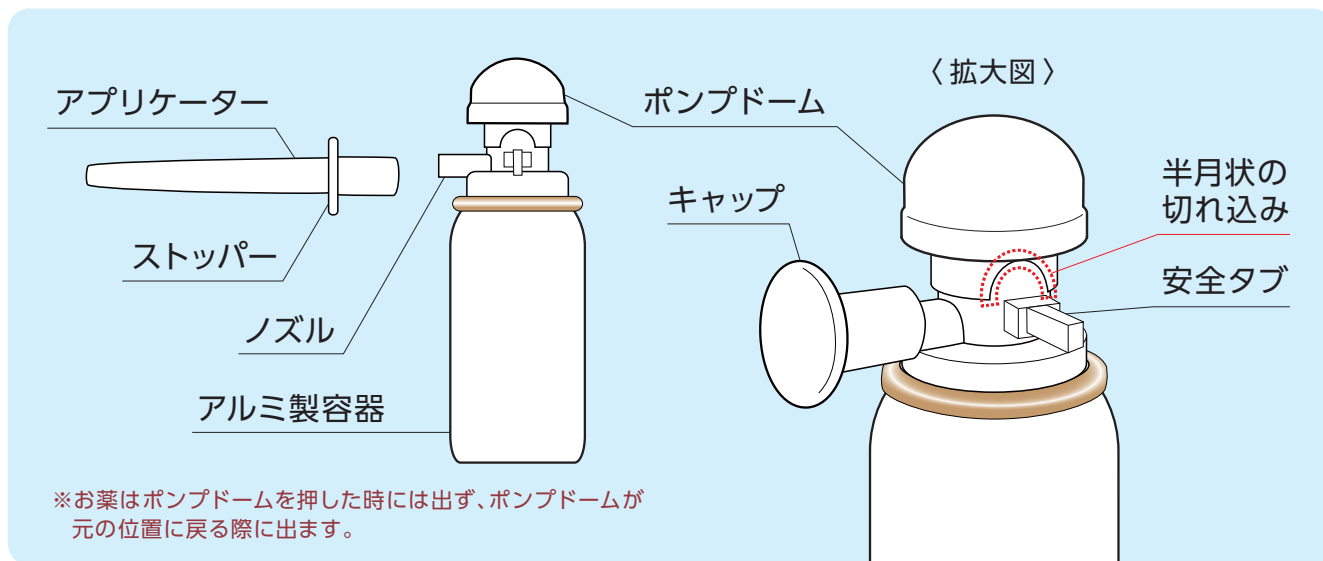


● レクタブル®は、泡が患部に長くとどまって抗炎症効果を発揮します。



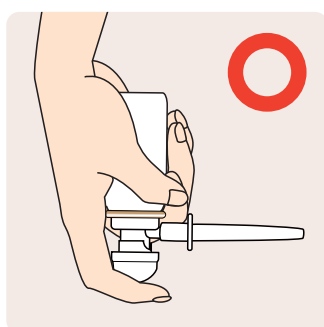
● 使用の準備

● 各部の名称



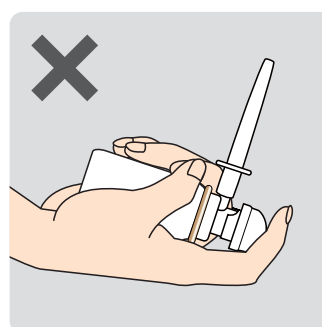
● レクタブル®の使用にあたって特にご注意いただきたいこと

● アルミ製容器は、必ず逆さにしてご使用ください。



逆さにして使用

アルミ製容器ができるだけ垂直になるよう、ポンプドームを真下に向けてください。



横にして使用

ポンプドームを真下にしないと、定められた量が注入できません。

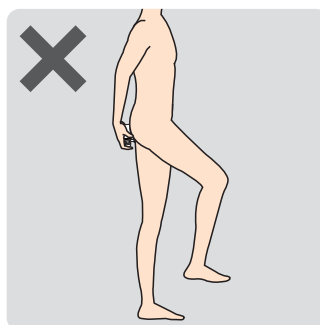
※レクタブル®は、アルミ製容器を逆さにしてポンプドームを押すことでポンプドーム内に泡が溜まり、指を緩めることで、泡が出てくる構造となっています。

● 以下のような姿勢で投与してください。

片方の足をイスや洋式トイレにのせ、
やや前かがみの姿勢で投与



上半身が直立した姿勢



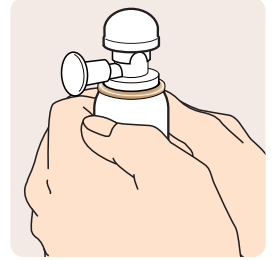
すわったまま使用



使用前にアルミ製容器を 手で温めてください

※冷えていると、薬液の流動性が悪くお薬が出にくい場合や、ポンプドームが押しにくい場合があります。

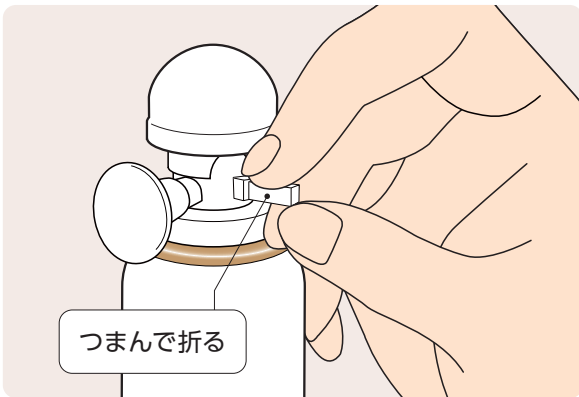
- 使用前はしばらくの間、約20～30℃の場所に置いてください。
- 高圧ガスを使用しているため、体温以外では温めないでください。



アルミ製容器を振って、
バシャバシャという音がすることを
確認してください。

音がしない場合、再度手で温めてください。

1 安全タブを外す 初回使用時のみ



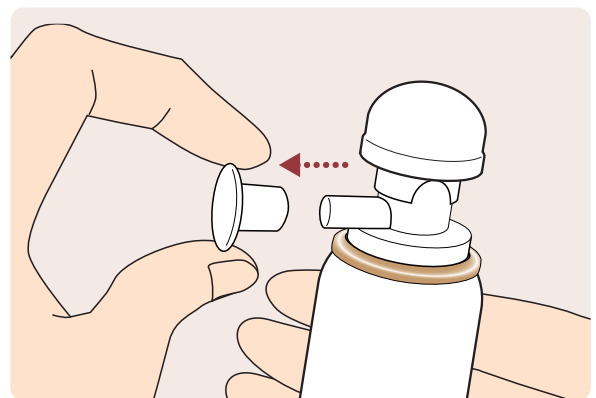
安全タブは、折れにくいのでご注意ください。

2 15秒間振る

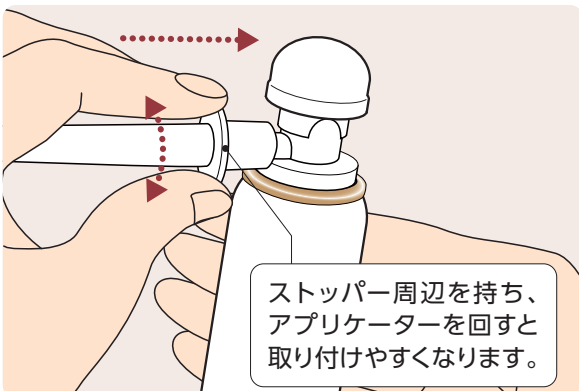


アルミ製容器を15秒間よく振ってください。

3 キャップを外す

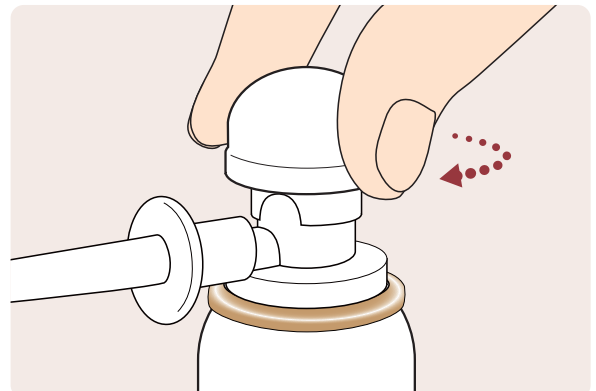


4 アプリケーターの取り付け



アプリケーターをノズルの根元までしっかり取り付けます。毎回、新しいものを使ってください（本剤にはアプリケーターが14個同梱されています）。

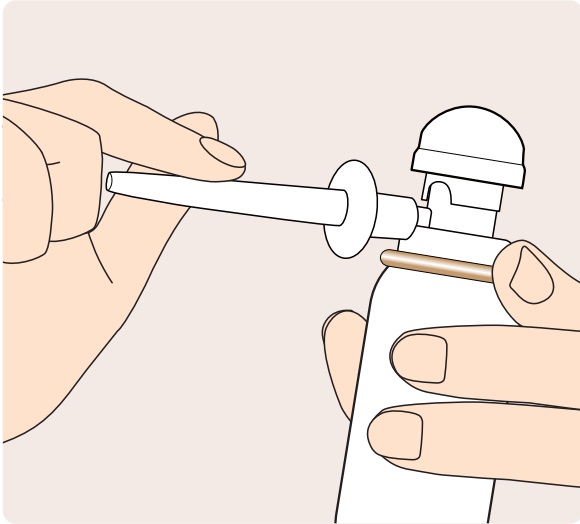
5 ポンプドームを回す



ポンプドームを回し、半月状の切れ込みがノズルの真上になるように合わせます。

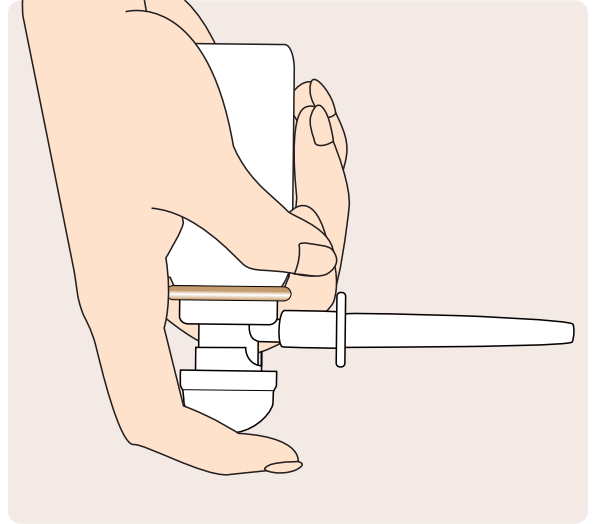
● レクタブル®の使用法

1 必要に応じて、じゅんかつざいワセリンなどの潤滑剤を塗る



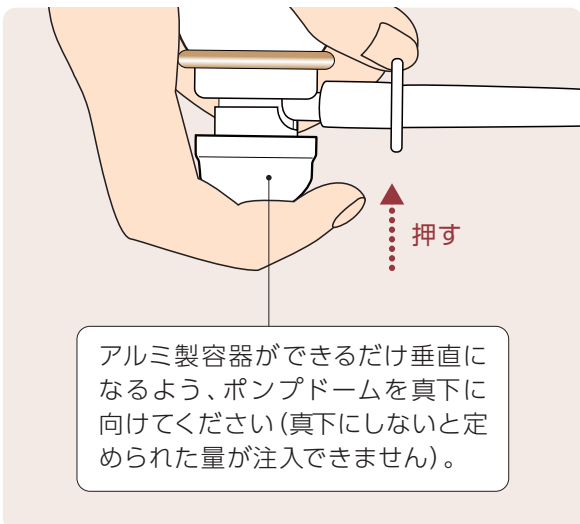
じゅんかつざい
挿入しやすいように、アプリケーターに潤滑剤を塗ります
(手をよく洗うなどして清潔な手で塗ってください)。

2 容器を持ち、真下に向ける



ポンプドームに人差し指を置き、アルミ製容器を真下に向けます。

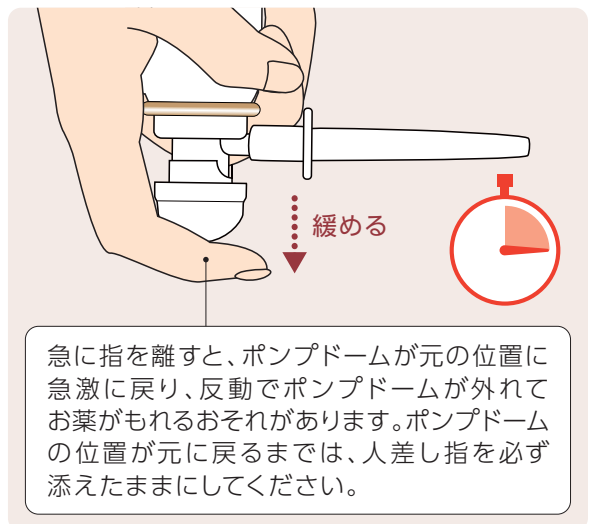
5 ポンプドームを 押したまま約2秒待つ



アルミ製容器ができるだけ垂直になるよう、ポンプドームを真下に向けてください(真下にしないと定められた量が注入できません)。

ポンプドームを人差し指で完全に1回押し、そのまま約2秒間押したままにします
(この状態ではお薬は出ません)。
1回の使用で2回以上押さないでください。

6 ずっと人差し指の力を緩め、 約15秒待つ



急に指を離すと、ポンプドームが元の位置に急激に戻り、反動でポンプドームが外れてお薬がもれるおそれがあります。ポンプドームの位置が元に戻るまでは、人差し指を必ず添えたままにしてください。

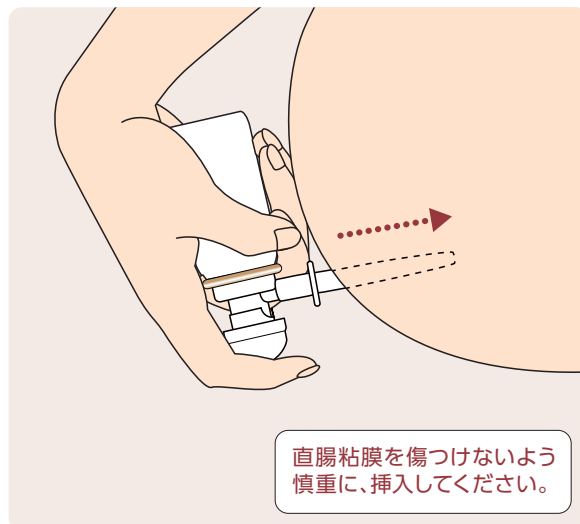
アプリケーターを肛門に挿入したまま、ポンプドームが元の位置に戻るまでずっと人差し指の力を緩め、約15秒間待ちます
(この間にお薬が注入されます)。

3 片足をイス等のにのせ、上半身を少し前に倒す



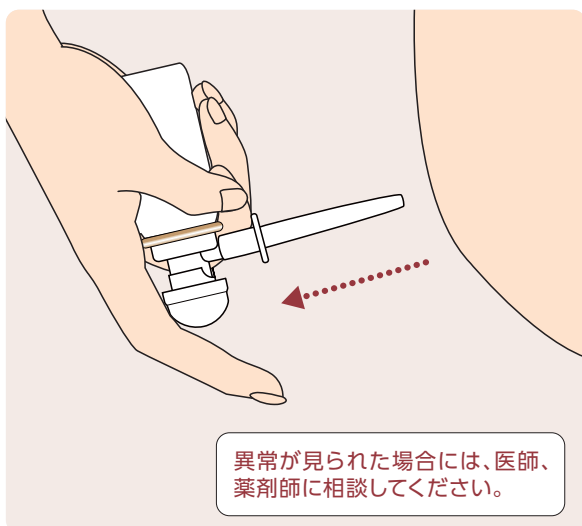
アプリケーターを挿入しやすく、ポンプドームを押しやすい体勢をとります。

4 肛門にアプリケーターを挿入



アルミ製容器を逆さまにしたまま、肛門にアプリケーターをストッパーまで確実に挿入します。挿入によって痛みが生じる場合には、無理のないところまで挿入してください。

7 アプリケーターを引き抜く



アプリケーターを肛門からゆっくり引き抜きます。お薬が肛門からもれた場合は、速やかにふきとってください。

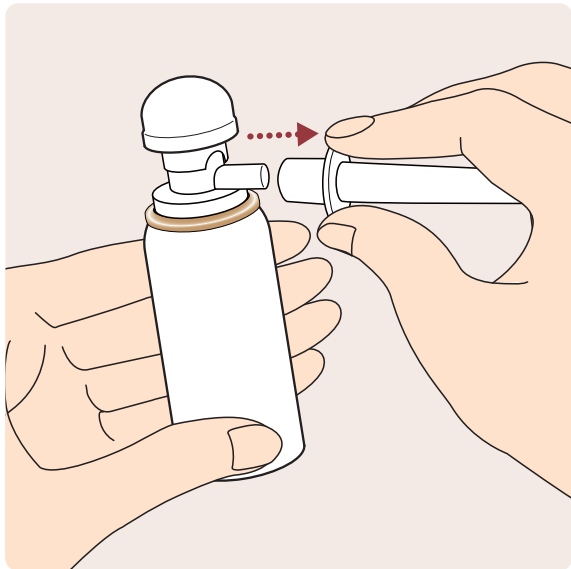
レクタブル®使用方法の動画を、下記のQRコード、もしくはQRコード下にあるURLから見るすることができます。



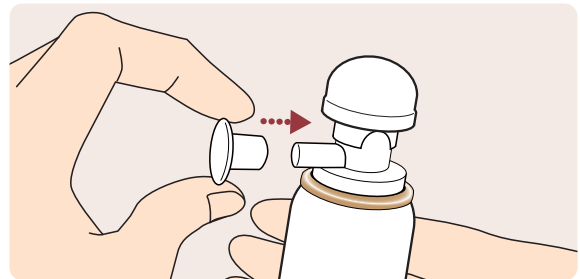
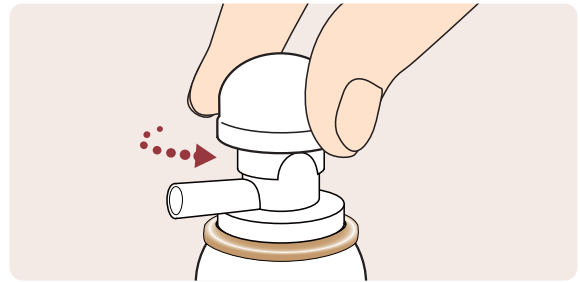
<http://www.rectabul-eapharma.jp/howto/movie/use.html>

● 使用終了後

● 使用終了後



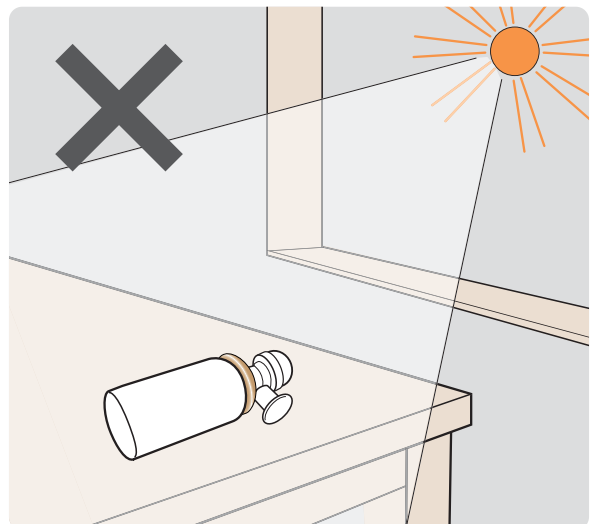
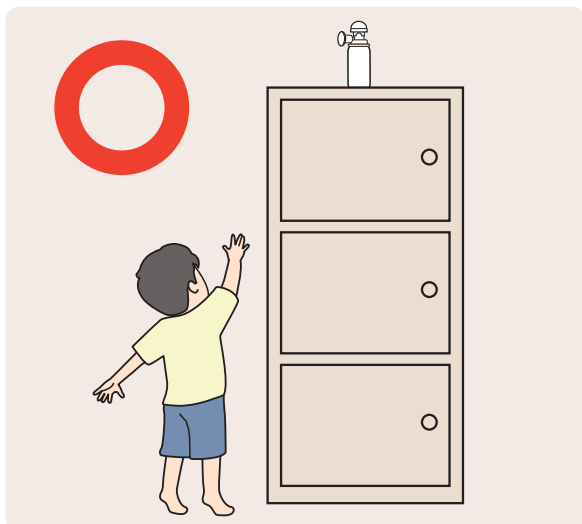
アプリーケーターをノズルから取り外します。使用済みのアプリーケーターは、廃棄袋に入れて、各自治体のルールに従って廃棄してください。



ポンプドームを回して、半月状の切れ込みを使用前の位置に戻し、ノズルにキャップをつけます。

● 保管方法

- アルミ製容器は横にせず、立てた状態で保管してください。
- 小児の手の届かない所に保管してください。
- 室温（1～30℃）でキャップをつけた状態で保管してください。
- 高温にすると破裂の危険があるため、直射日光のあたる所や火気などの近くに置かないでください。



● 廃棄方法

- 廃棄する前にまず、アルミ製容器に残った薬剤をできる限り出し切ってください。その際、アルミ製容器に穴を開けないでください。
※当製品は、1缶14回、安定した量の薬剤を噴射できるように多めに薬剤が充填されています。そのため、14回噴射した後もある程度の薬剤が残るようになっています。
- その後、地方自治体により定められたアルミ製容器の廃棄ルールに従って捨ててください。
- 廃棄する際、アルミ製容器に穴を開ける場合には、薬液が皮膚や目などに付着しないよう十分注意してください。

● 全般的な注意事項

- 本剤容器の中には14回（7日）分よりたくさんのお薬が入っていますが、14回使用したら、薬液が残っていても新しい容器に交換してください。
- アプリケーターだけの提供はできませんので、アプリケーターはなくさないよう注意してください。
- 手指や目などにお薬が付着した場合は、速やかに水で洗い流してください。
- 高圧ガス（LPG）を使用した可燃性の製品であり、危険なため下記の注意を守ってください。
 - 炎や火気の近くで使用しない
 - 火の中に入れてない

● レクタブル®の副作用

副作用として下記のような症状が報告されています。



頭痛



ざ瘡(にきび)



手足のむくみ

不眠

めまい

痔核(いぼ痔)

臨床検査値(血液検査)
の異常

高血圧

投与中に痛み、違和感(お尻がかゆい等)を感じた場合や、その他気になる症状がある場合は、主治医や看護師・薬剤師に相談してください。

● チェックリスト ～特に気をつけてほしいこと～

最後に、レクタブル®の使用、保管、廃棄にあたってのポイント
をまとめました。ご確認頂いた項目に、 チェックをして
ください。ご不明な場合は、該当ページをご確認ください。

投与前、アルミ製容器を温めてください。

5ページ

アルミ製容器を振って、「バシャバシャ」という音を確認
してから、15秒間アルミ製容器を振ってください。

5ページ

投与の際、アルミ製容器ができる限り垂直になるよう、
ポンプドームを真下に向けて投与してください。

4ページ

投与の際、ポンプドームを押したまま約2秒待ち、その後、
すっと人差し指の力を緩め、約15秒待ちます
(この間にお薬が注入されます)。

6ページ

アルミ製容器は横にせず、室温(1℃～30℃)でキャップ
を付けた状態で立てて保管してください。

8ページ

1缶で14回投与したら、新しい缶を使用してください。

9ページ

廃棄する前にまず、アルミ製容器に残った薬剤をできる
限り出し切ってください。その際、アルミ製容器に穴を
開けないでください。

9ページ

投与中に痛み、違和感(お尻がかゆい等)を感じた場合は、
医師や看護師・薬剤師に相談してください。

10ページ

レクタブル®使用方法の動画を、下記のQRコード、もしくはQRコード下にあるURLから見ることができます。



<http://www.rectabul-eapharma.jp/howto/movie/>